

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370219

研究課題名(和文) 中世道行文形成過程の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of the formation on process of the Michiyukibun in the Middle Ages

研究代表者

岡田 三津子 (OKADA, MITSUKO)

大阪工業大学・知的財産学部・教授

研究者番号：50201984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、宴曲詞章の検討を通して、中世における道行文の形成と展開に関わる総合的考察を行った。

以下に三点に分けて考察の結果述べる。第一に科研費を活用して、新出資料である国立歴史民俗博物館所蔵『六家抄下』紙背の修復および撮影を行った。第二に共同研究で新出の早歌「四季恋」「鶯」「枕」に注釈を施した。第三に、宴曲伝本の調査に基づいて「伝本一覧」を作成した。このうち、室町期の古写本については詳細な報告を作成した(佐々木孝浩担当)。

以上の考察を踏まえて、編著『資料と注釈 早歌の継承と伝流—明空から坂阿・宗砌へ—』の出版を企画した。2017年5月公刊予定(三弥井書店、393ページ、定価7600円)

研究成果の概要(英文)：In this research, through examination of sentences of the banquet, we made a comprehensive examination of the formation and development of the Dogenpassage in the Middle Ages. Utilizing Grant-in-Aid for Scientific Research, we restored and shot the paper dog of the newly discovered material "ROKKASHOU Second volume (六家抄下)" in the National Museum of Japanese History. Based on the investigation of the transmitted book, I made a "list of traditions". Based on the above research results, we planned publication of "Inheritance and Communication of Materials and Notes SOGA(早歌)"

研究分野：中世日本文学

キーワード：道行文 宴曲 早歌 新出の早歌 伝本一覧

1. 研究開始当初の背景

道行文は旅の経過地名を枕詞・枕詞・縁語等の修辞法を連ねつつ進行と旅情を表現する韻文と定義される。中世は道行文の開花期として位置づけられるが、研究史上において十分な考察がなされているとは言い難い状況にあった。

筆者は道行文のなかで宴曲に焦点をあて、他の文学作品との影響関係を辿ることにした。

宴曲が中世における道行文形成に果たした役割を明らかにするための第一歩として、用字の相違に重点を置いた宴曲の本文批判・本文校訂を目的として科研費基盤研究(C)の交付を受けた(「中世道行文形成過程の基礎的研究」2011年度～2013年度)。

室町期譜本を中心とする宴曲伝本の書誌調査を行う一方で、早歌詞章と他の作品との考証を文学史的に解き明かそうとする論考も執筆した。また、宴曲における道行の代表的作品である「海道」「熊野参詣」「善光寺修行」をテーマとする特別研究会を開催し、専門分野にとらわれず宴曲を読み解く場を提供した。その結果、歌謡研究の観点から論じられることの多かった宴曲について、和歌・説話・謡曲等のそれぞれの専門分野に立脚した発言・研究を引き出すことができた。

伝本調査の過程で、従来の伝本分類そのものを見直す必要があることが確認できた。伝本の悉皆調査も完了しておらず、新たに科研費を申請することとした。

2. 研究の目的

本研究は、宴曲詞章の文学史的考察を基点として、それが軍記物語・謡曲・連歌など他のジャンルに与えた影響を丹念に辿ることによって中世における道行文の形成と展開にかかる総合的考察を行うものである。日本中世における和漢混淆文成立に際し、宴曲詞章が与えた影響は計り知れないものがある。宴曲詞章の検討を通して、中世における道行文の形成と展開を明らかにすることは、日本文章史研究にも大きく寄与するものである。

3. 研究の方法

(1) 宴曲譜本の悉皆調査を目指し、室町期譜本を中心とした文献調査を行った。

(2) (1)を踏まえて伝本一覧の作成を行った。

(3) 文学史のなかで、宴曲集巻第四所収の「海道」がどのように受容されたのか、その位置づけを試みた。東海道の文学史の起点となること、曲舞「東国下」や延慶本『平家物語』との影響関係だけでなく、小歌(『閑吟集』)として切り取られ、やがては小学唱歌にも取り入れられるという変遷について考察した。

(4) 七十一番職人歌合の「曲舞舞」を取り上げ、所載和歌に関する新解釈を試みた。

(5) 宴曲古写本については、書誌学の専門的立場からの調査の必要性を感じたため、研究協力者として、斯道文庫佐々木孝浩氏に依頼した。佐々木氏は、科研費から支出した旅費によって、室町期譜本の書誌調査および報告書作成を行った。

(6) 科研費を活用して、新出資料である国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『六家抄 下』紙背の解体・撮影・補修を行った。歴博との交渉の結果、補修後も袋綴じに戻すことはせず、開いた状態で保管が可能となった。

(7) 共同研究により、室町期に作られた新作の早歌(宴曲)である「四季恋 鶯 枕」(いずれも従来未知の資料)に注釈を施し、その公刊を目指した。室町期の作品であるという前提のもと、注釈に際しては、幅広い作品に目配りした。

4. 研究成果

(1) 京観世岩井家に伝わる『岩井家所蔵目録』の再検討を通して、岩井家四代目当主岩井直恒が所蔵していた宴曲譜本と現存宴曲伝本の関連について考察した。

(2) 伝本一覧を作成する過程で、可能な限り所蔵者および所蔵機関の変更情報を入手した。また、竹柏園本『撰要目録』が天理大学附属天理図書館に所蔵されていることなど、不明とされていた伝本の所在を新たに確認することができた。

(3) 伝浅井了意筆『撰要目録巻』が大谷大学図書館蔵『撰要目録巻』を書写したものであることが明らかになった。従来所在不明であった竹柏本『撰要目録巻』が天理大学附属天理図書館の所蔵であることも判明しており、『撰要目録巻』の諸本研究に新たな材料を提供できた。

(4) 世阿弥作の謡曲《忠度》が、琳阿作の曲舞「西国下」の詞章を撮取し、『平家物語』における一門都落の世界を再構成していることを明らかにした。

(5) 従来の伝本一覧表をもとに最新の情報を織り込んだ「伝本一覧」を作成した。書写年次によって「室町期」「江戸期」「明治以降」の三つに分類した。宴曲が生きて謡われていた時代、芸能としては途絶した宴曲が書物として書写された時代、文学史の中に埋もれていた宴曲が野村八良・吉田東伍によって「再発見」され伝本の収集・書写が行われた時代と、それぞれ位置づけられる。この一覧によって時代による宴曲享受の諸相を浮かび上

がらせることができた。

(6)江戸期に書写された伝本整理の過程で宮内庁書陵部に所蔵されている『続群書類従従本』のうち、『別紙追加曲』と『玉林苑』とが別系統の写本であることが判明した。従来「続群書類従系統本」と称されてきた一群の写本についても考察する必要があることが判明した。

(7)外村久江氏が作成した「早歌関係資料」の補訂版を作成した。科研費を活用して、「早歌関係資料」(東京学芸大学紀要、25、1973年12月)の文献目録のデータ入力を行い、それに基づいて補訂した。さらに、外村氏自身の補訂資料に加えて、宴曲(早歌)伝本の識語等も補った。様々な資料を補訂したことで、早歌享受の実態を浮かび上がらせることができた。

(8)研究協力者神田裕子氏の協力を得て、「早歌文献目録」の補訂版を作成した。科研費を活用して、『早歌全詞集』巻末所載の文献目録のデータ入力を行い、それに基づいて、2016年10月までの研究文献を補訂した。

(9)国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『六家抄下』紙背の解題執筆を本資料発見者であり本研究の研究協力者でもある落合博志氏に依頼した。紙背の二種の早歌本が連歌師宗伊の所持本であった可能性を指摘し、紙背早歌の本文についても詳細な検討を加えた。

(10)上記4から9の成果をまとめるために『資料と注釈 早歌の継承と伝流 明空から坂阿・宗砌へ』を公刊する(2017年5月26日刊行予定)。現存資料を手がかりとして、室町期を中心とする早歌の継承と伝流の軌跡をたどり、明空から坂阿に受け継がれた早歌が、宗伊・宗砌をはじめとする人々に継承された軌跡を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

岡田三津子、「岩井家所蔵目録をめぐる文化的状況 所載宴曲関連書目の再検討」、pp155 - 167、査読無、『京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告』11、2016年10月

岡田三津子、「早歌 四季恋 と謡曲《三井寺》」、p1、査読無、『月刊能』702、2016年10月

岡田三津子「静嘉堂文庫蔵賜蘆本『参考源平盛衰記』の注釈姿勢 奈佐本『源平盛衰記』の引用を中心として」、『文化現象としての源平盛衰記』松尾葦江編、pp620 - 634、査読有、笠間書院、2015

年5月

岡田三津子、「謡曲《忠度》花への修辞心の花か蘭菊の狐河より引き返しー」(『世阿弥の世界』公益財団法人京都観世会編、pp44-46、査読無、2014年10月)
岡田三津子、「岩井直恒と宴曲」、『月刊能』671、査読無、p1、2014年4月

[学会発表(招待講演)](計 2件)

岡田三津子、中世に流行を遂げた曲舞とは、2016年6月17日(土) 山中能楽堂特別公演「ろうそく能」、於：山中能楽堂(大阪市東住吉区西田辺)

岡田三津子、宴曲「海道」の文学史 忘れられた流行歌謡、2014年10月18日(土)、第9回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座、於：東京国立博物館平成館(東京都上野区)

[図書](計 1件)

岡田三津子(編著)『資料と注釈 早歌の継承と伝流 明空から坂阿・宗砌へ』全393ページ、三弥井書店、2017年5月26日刊

はじめに pp1-6 (岡田三津子)

資料編：伝本一覧 pp9-16 (岡田三津子)
宴曲古写本書誌(佐々木孝浩)
早歌関係資料補訂 pp39-81

(岡田三津子)

早歌文献目録補訂(神田裕子)
国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『六家抄下』紙背および早歌について(落合博志)

影印1 国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『六家抄下』紙背

影印2 鴻山文庫本『撰謡三名秘訣并三説二説両曲口伝事』

注釈編 新出早歌「四季恋」「鶯」「枕」

担当：安達敬子・植木朝子・

岡田三津子 pp237-250

・櫻井陽子

「熊野参詣」第一から第五

担当：家永香織

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡田三津子(OKADA, Mitsuko)
大阪工業大学・知的財産学部・教授
研究者番号：50201984

(4)研究協力者

安達 敬子(ADACHI, Keiko)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：90194555

植木 朝子(Ueki, Tomoko)

同志社大学・文学部・教授
研究者番号：10272741

落合 博志 (OCHIAI, Hiroshi)
国文学研究資料館・教授
研究者番号：50224259

櫻井 陽子 (SAKURAI, Yoko)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：60211934

佐々木 孝浩 (SASAKI, Takahiro)
慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授
研究者番号：20225874

家永 香織 (IENAGA, Kaori)
白百合女子大学・文学部・兼任講師
研究者番号：ナシ

神田裕子 (KANDA, Yuko)
明治大学・文学部・兼任講師
研究者番号：ナシ